ソウル大学校新聞会が本学を訪問

集合写真

２月２日（金）に，協定校であるソウル大学校新聞会一同が本学を訪問しました。韓国では多くの大学に大学新聞の文化が残っていますが，中でもソウル大学校新聞会は1952年２月４日に創設されて以来，同大学校学長を編集長として，各大学が官報作成に移行しても残り続け，社会への批判精神と会員の連帯意識を持ち活動しています。記事一つが学校環境を変え，学生や社会を動かし，新たな談論形成を主導するという思いのもと，学期中の毎週月曜に18,000部を発行しています。記者，編集者は文理問わず様々な学部の学生で成り立ち，２ヶ月の訓練期間を設け登用され，国内外への研修も行われています。

今回の訪問は同新聞会の国外研修の一環であり，現在，本学に同様の新聞はないものの，協定校の類似媒体について学びたいとの依頼を受け実現しました。高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）で，Facebookページ「いいね！ Hokudai」の活動に携わっている村井　貴特任助教，朴　炫貞特任助教の協力を得て，教員４名，学生記者・編集員28名，事務職員２名を迎え入れました。

村井特任助教からは，「Brief Introduction about the *Like.Hokudai* Project（いいね！ Hokudaiの取り組みについて）」と題して同Facebookページの運用，講義との連動，学生や卒業生からの反応について紹介がありました。ソウル大学校からは，師範大学教育学科教授／科学学習創造的才能開発センター長であり，ソウル大学校新聞会のJohgho SHIN主幹から開催に際してのお礼があった後，自然科学大学物理天文学科所属でソウル大学校新聞会のJong-Hak WOO副主幹から同新聞会の活動と体制について説明がありました。大学の公的広報媒体とは違う立ち位置で行っている共通性があり，実働体制や活動予算，研修，頒布，反響が大きい層等について質疑応答が行われました。同新聞はキャンパス内で問題提起し学内の相互作用を生むものと捉えられており，本学で同様の組織が見受けられないことについて残念そうな学生記者もいました。

今回の訪問で，ジョイントシンポジウムにおける研究教育協力以外にも，両校の協働可能性が広がっていることが示されました。

（国際部国際連携課）

意見交換会の様子